

<論 点>

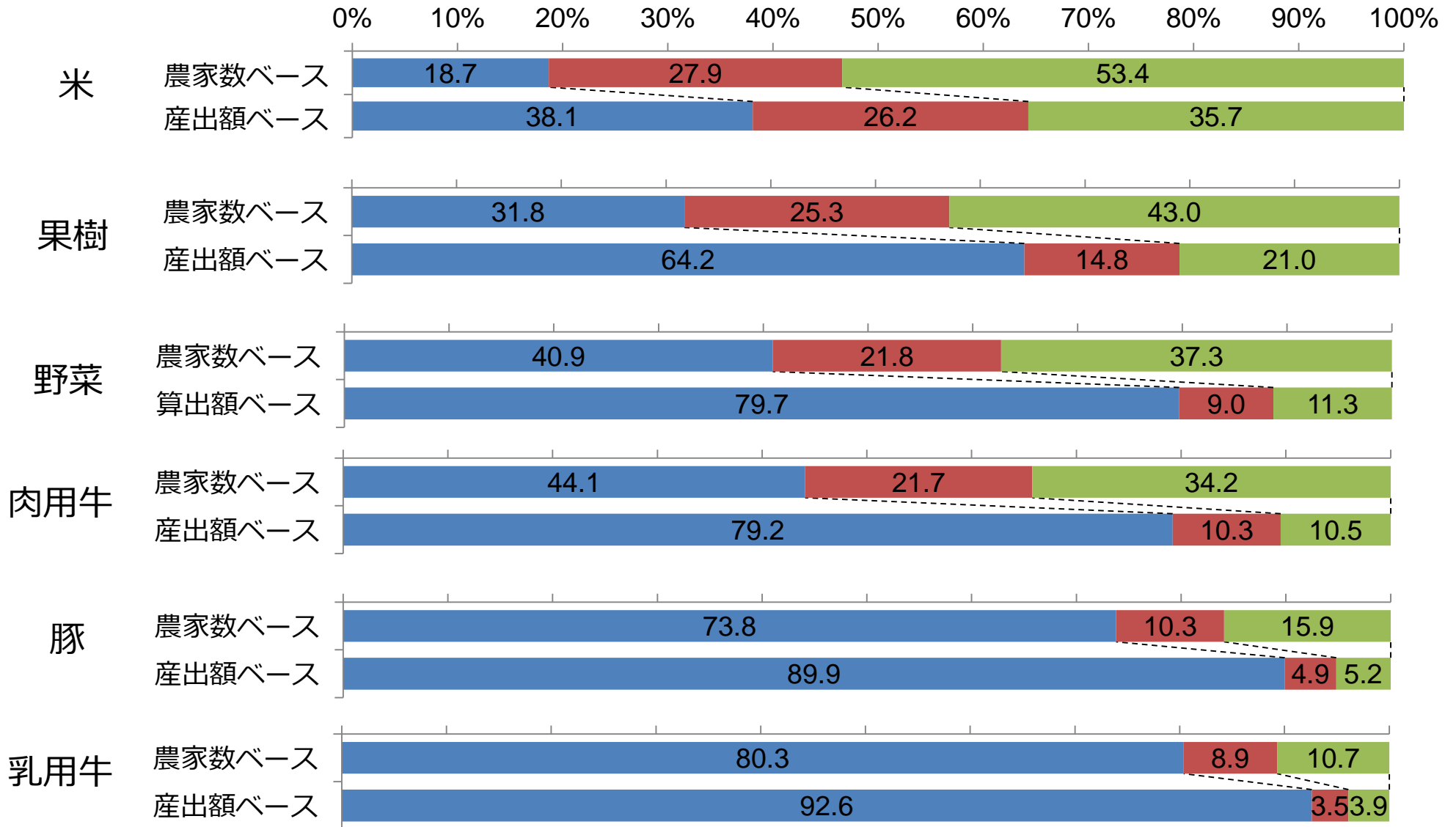
- ダウンサイジング社会の進展に伴い、農業をベースとした地域社会（特に中山間地等）は、今後どう変わっていくのか？
  - ダウンサイジングプロセスにおける課題が先進的に表れている地域社会（中山間地等）の現状は、どうなっているのか？また、そこから何が読み取れるか？
  - 地域社会（特に中山間地等）の持続性はどのように確保されるか。また、その中で農業の果たす役割は何か？
- 日本の農業を産業としてどう評価するか？また、これからの農業はどうあるべきか？

## （第3回データ資料集【農業】）

内閣官房行政改革推進本部事務局

# 主な品目別農家数と農業産出額との比較（平成22年）

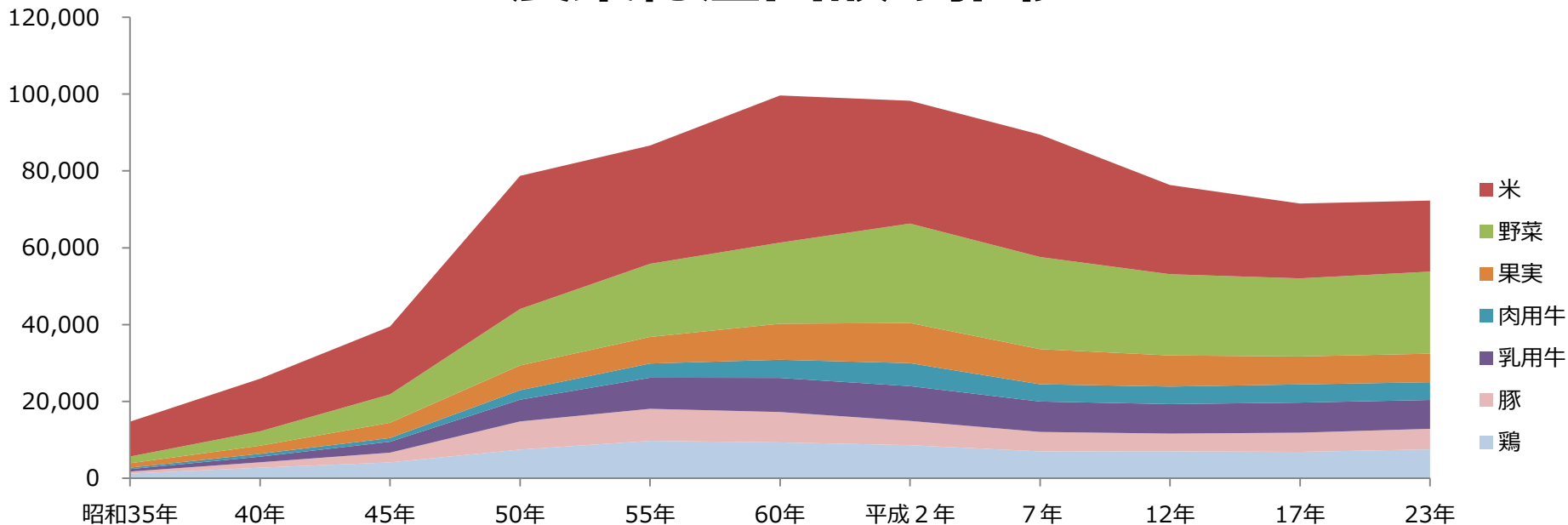
■ 主業農家 ■ 準主業農家 ■ 副業的農家



(注) 1 「平成22年度 食料・農業・農村白書」（平成23年5月31日農林水産省公表）を基に事務局が作成  
 2 「米」の「農家数ベース」は、水稻農家の割合

単位：億円

# 農業総産出額の推移



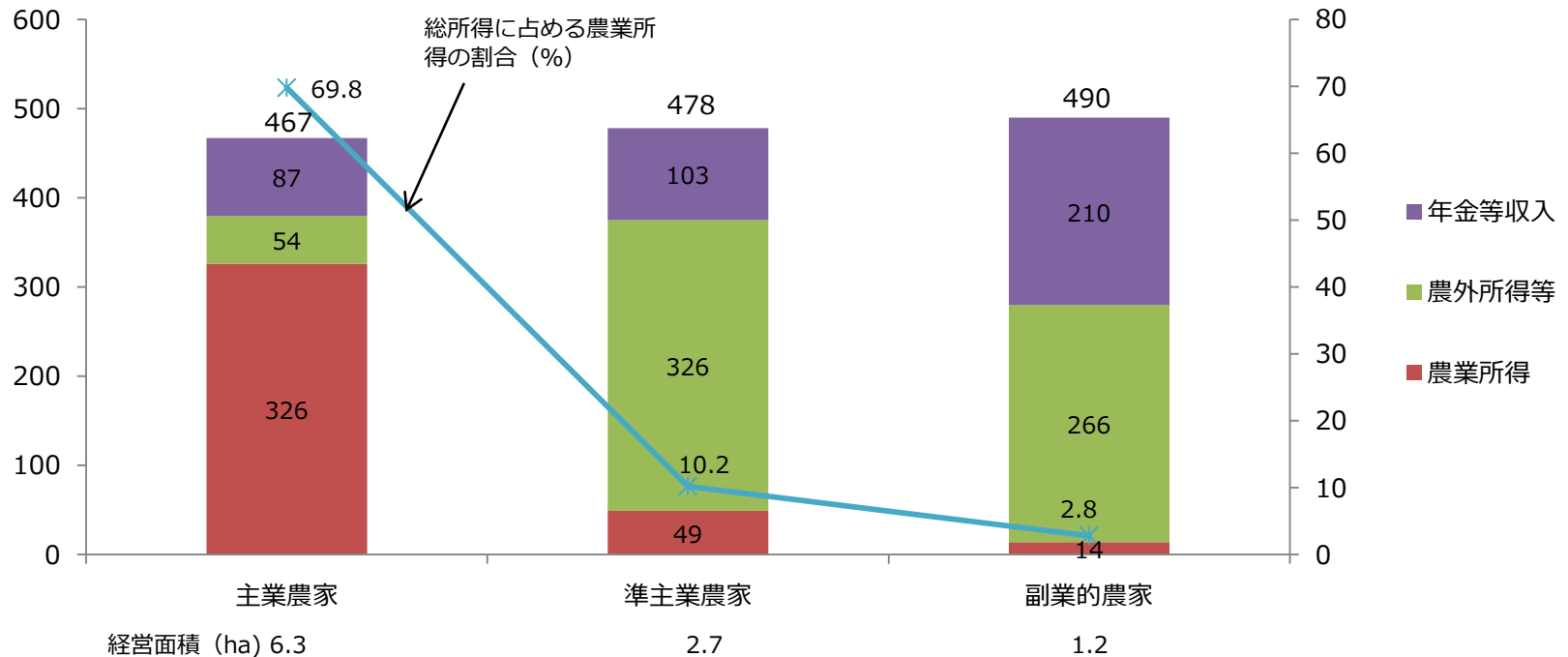
区分	米	野菜	果実	肉用牛	乳用牛	豚	鶏
昭和35年	9,074	1,741	1,154	375	635	559	1,205
40年	13,691	3,744	2,100	754	1,461	1,412	2,759
45年	17,662	7,400	3,966	974	2,834	2,538	4,142
50年	34,658	14,673	6,462	2,467	5,655	7,333	7,471
55年	30,781	19,037	6,916	3,705	8,086	8,334	9,752
60年	38,299	21,104	9,383	4,727	8,876	7,910	9,342
平成2年	31,959	25,880	10,451	5,981	9,055	6,314	8,622
7年	31,861	23,978	9,140	4,494	7,917	5,059	7,011
12年	23,210	21,139	8,107	4,564	7,675	4,616	7,023
17年	19,469	20,327	7,274	4,730	7,834	4,987	6,889
23年	18,497	21,343	7,430	4,625	7,506	5,359	7,530

- (注) 1 農林水産省「生産農業所得統計」の「全国推計統計表累年統計」を基に事務局が作成した。  
 2 昭和50年以前については、沖縄県を含まない。  
 3 平成14年3月の日本標準産業分類の改定により、もやしを農業に分類されたことから、13年よりもやしを含めた。  
 4 養蚕は、平成16年からその畜産物に含めることとした。このため、平成15年についても遡及してその畜産物に養蚕を含めている。

# 水田作の個別経営の総所得の構成等（平成18年）

単位：万円

単位：%



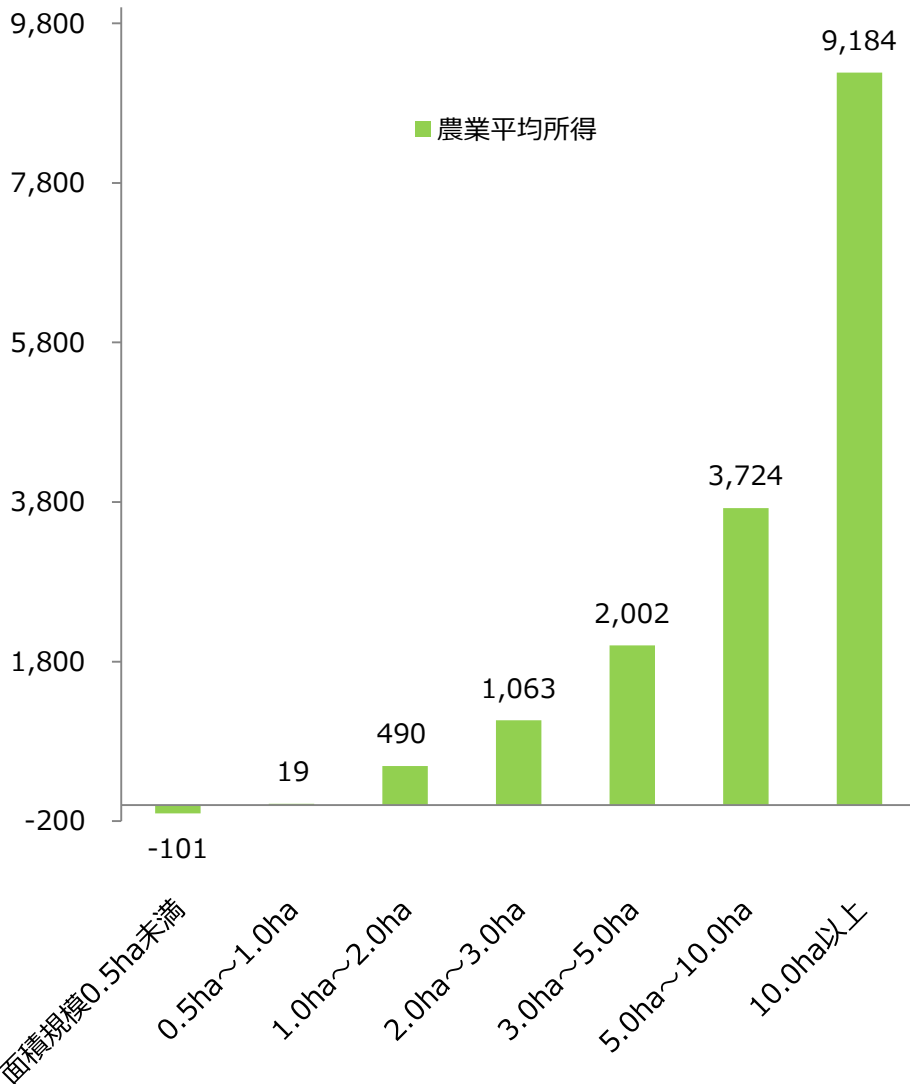
(注) 1 資料：農林水産省「農業経営統計調査（個別経営の営農類型別経営統計）」（組替集計）

2 「平成19年度 食料・農業・農村白書」（平成20年5月16日農林水産省公表）を基に事務局が作成

- ① 主業農家とは  
⇒ 農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家
- ② 準主業農家とは  
⇒ 農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいる農家
- ③ 副業的農家とは  
⇒ 1年間に60日以上自営農業に従事している65歳未満の世帯員がいない農家（主業農家及び準主業農家以外の農家）

# 水田作経営の農業平均所得

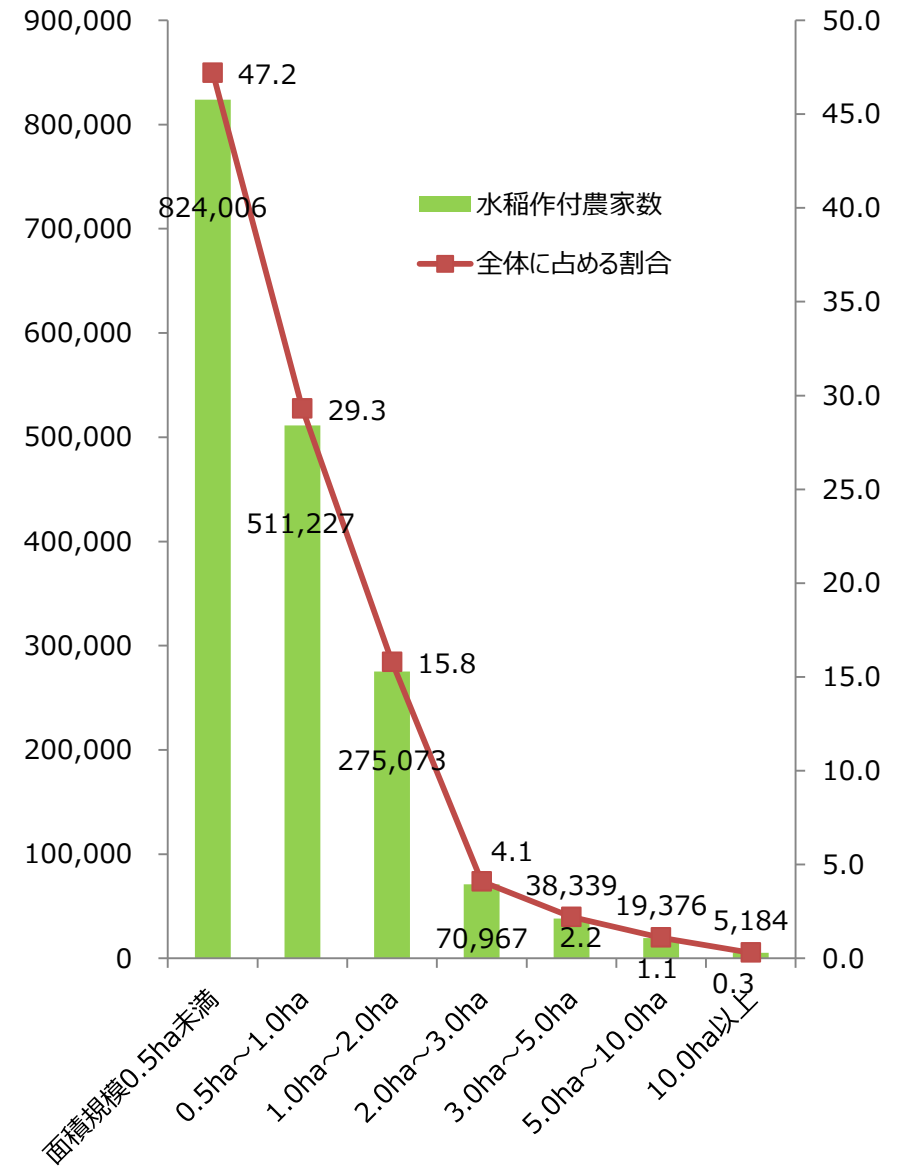
単位：千円



# 面積規模別水稲作付農家数

単位：戸

単位：%



(注) 「2010年世界農林業センサス」を基に事務局が作成

# 農業経営組織別基幹的農業従事者の状況等

農業経営組織別の基幹的農業従事者の平均年齢及び販売金額が1千万円以上の販売農家数割合（平成22（2010）年）

（単位：歳、％）

	全体	単一経営							準単一複合経営	複合経営
		稲作	露地野菜	施設野菜	果樹類	酪農	肉用牛	養豚		
基幹的農業従事者の平均年齢	66.1	69.9	64.5	59.9	65.5	55.1	63.2	57.3	65.1	63.2
販売金額が1千万円以上の販売農家数割合	7	1	14	35	6	85	22	79	11	18

資料：農林水産省「2010年世界農林業センサス」

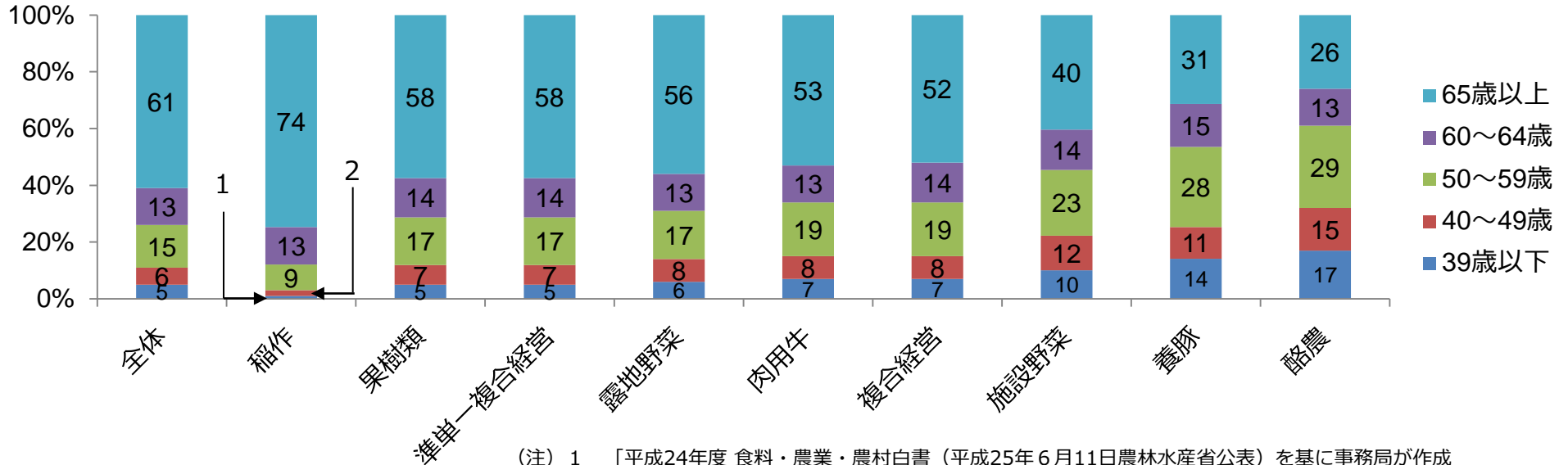
全販売農家に占める各種農家の割合（平成22年）

全販売農家	稲作農家	露地野菜農家	施設野菜農家	果樹農家	酪農農家	肉用牛農家	養豚農家
販売農家戸数（千戸）	1,160	322	1,134	242	224	654	64
販売農家戸数に占める割合（％）	71.1	19.7	6.9	15.6	1.7	3.7	0.4

（注）1 「2010年世界農林業センサス」を基に事務局が作成  
2 各農家は重複計上を含む。

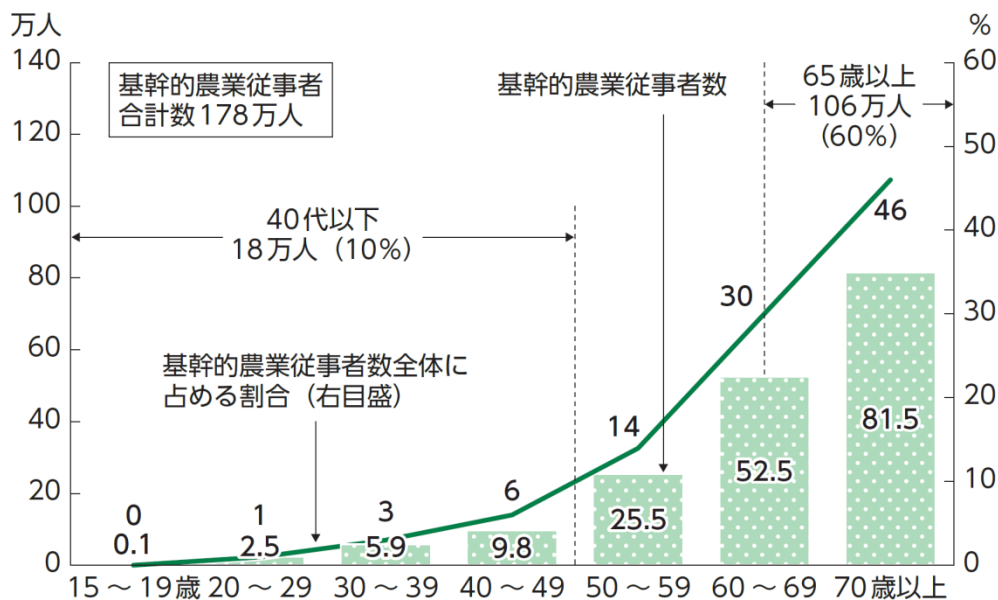
基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した15歳以上の世帯員（農業就業人口）のうち、普段の主な状態が「主に仕事（農業）」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等を含まない。

農業経営組織別基幹的農業従事者の年齢構成（平成22（2010）年）



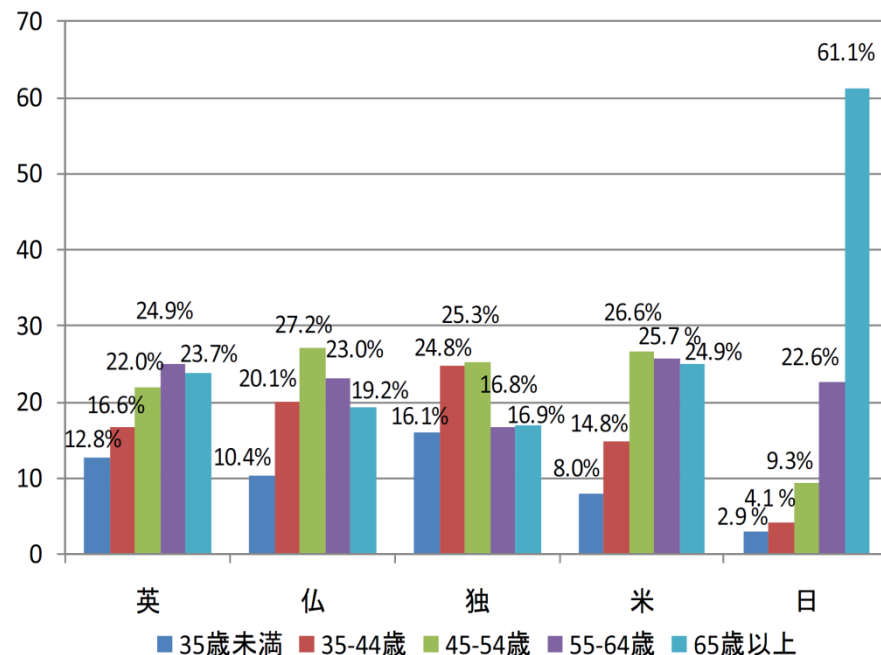
（注）1 「平成24年度 食料・農業・農村白書（平成25年6月11日農林水産省公表）」を基に事務局が作成  
2 出典：農林水産省「2010年世界農林業センサス」  
3 数値は四捨五入しており、合計とは一致しない。

## 年齢階層別の基幹的農業従事者数（平成24（2012）年）



資料：農林水産省「農業構造動態調査」（組替集計）

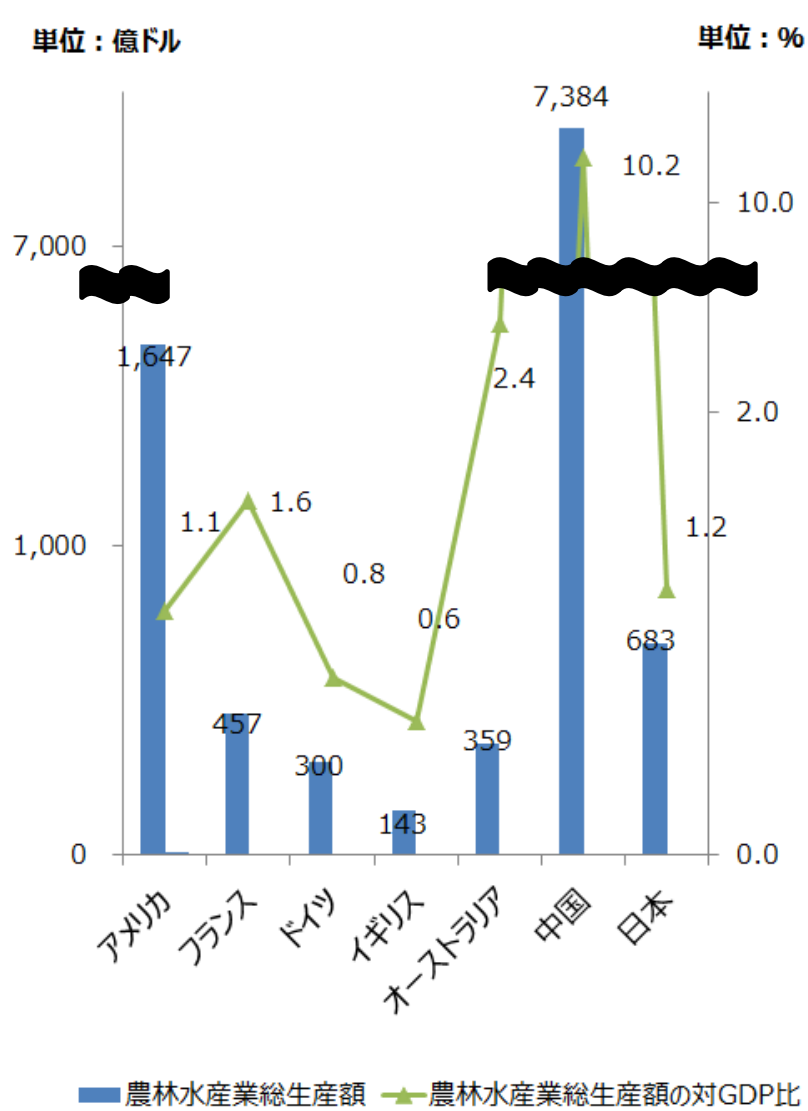
## 各国の農業従事者の年齢構成



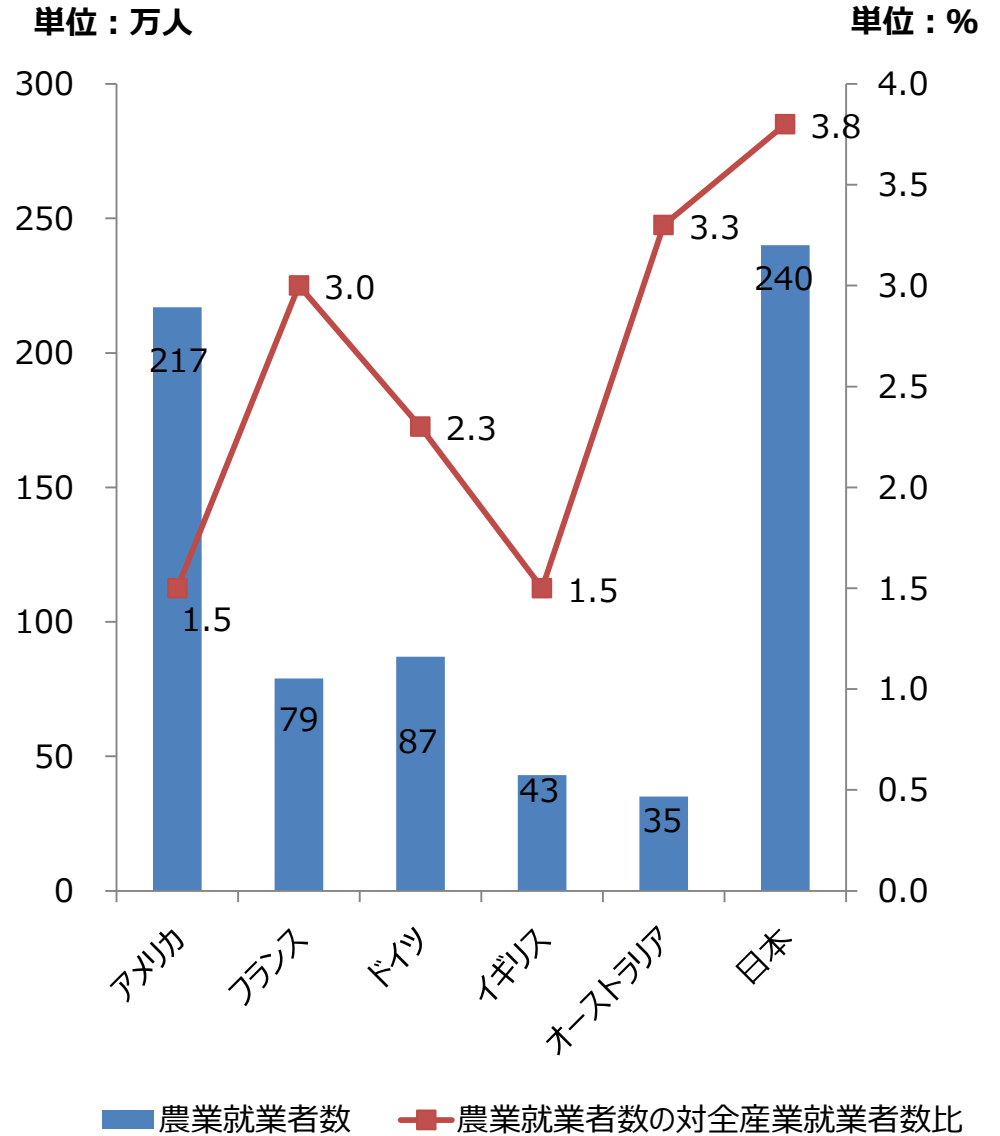
出典：英仏独は、EUROSTAT(2005)：農業に従事した世帯員  
 米は、米国農務省「センサス(2007)」：主に従事した世帯員  
 日は、農林水産省「2010年世界農林業センサス」：基幹的農業従事者

基幹的農業従事者：自営農業に主として従事した15歳以上の世帯員（農業就業人口）のうち、普段の主な状態が「主に仕事（農業）」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等を含まない。

# 農業関係指標の国際比較



(注) 「平成24年度 食料・農業・農村白書（平成25年6月11日農林水産省公表）の「参考統計表」を基に事務局が作成



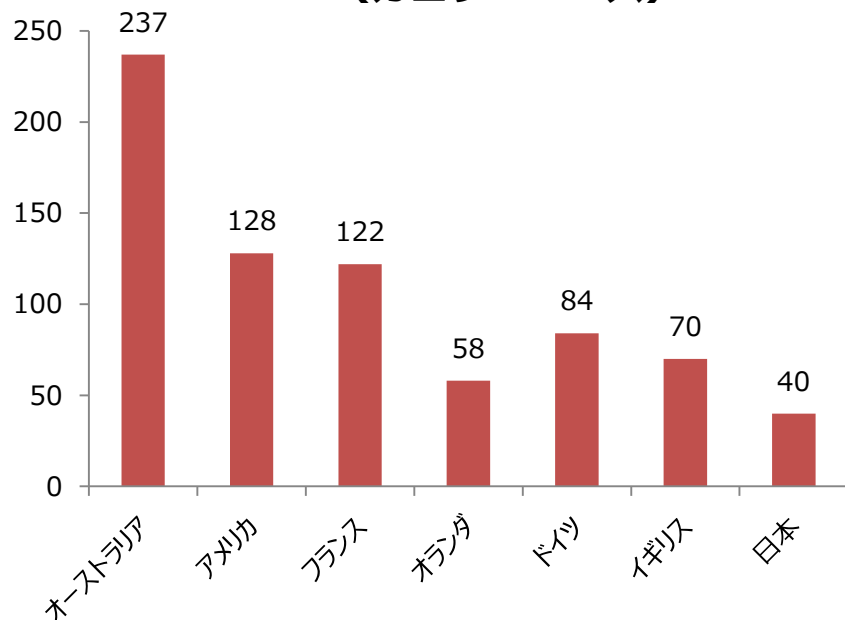
(注) 1 「平成24年度 食料・農業・農村白書（平成25年6月11日農林水産省公表）の「参考統計表」を基に事務局が作成  
2 中国のデータなし



## 食料自給率の各国比較

(カロリーベース)

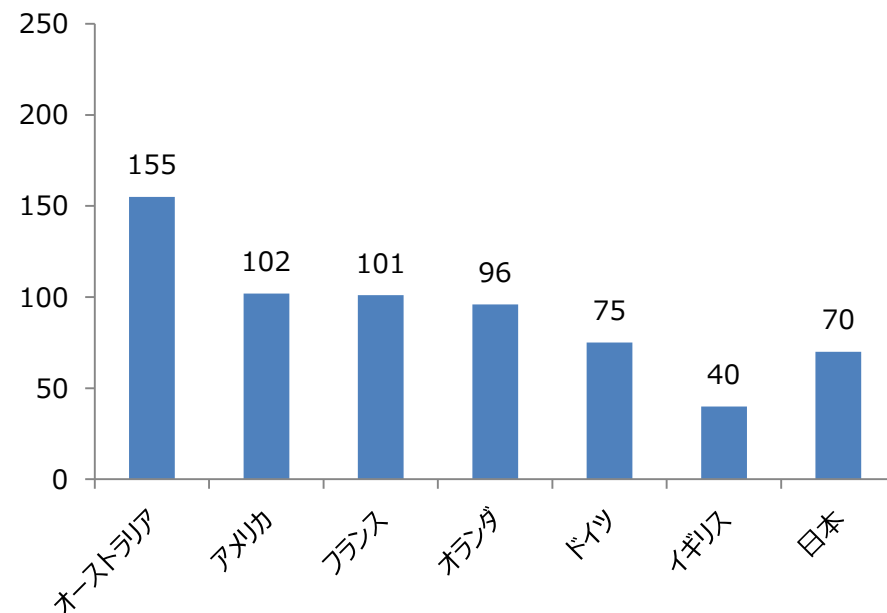
単位：%



## 食料自給率の各国比較

(生産額ベース)

単位%



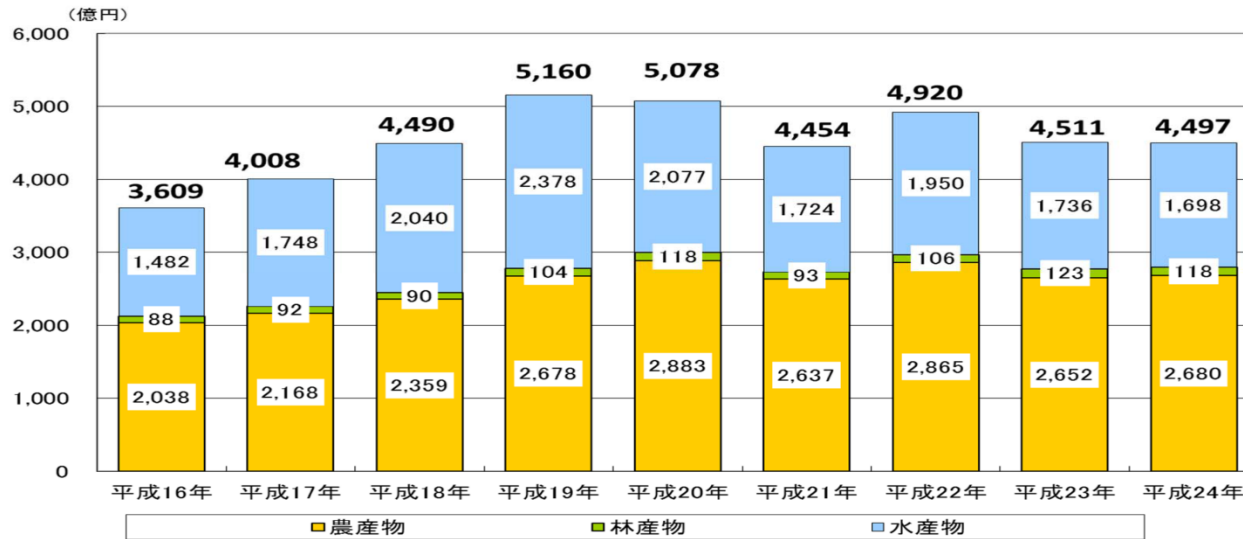
資料：農林水産省「食料需給表」、FAO “Food Balance Sheets”等を基に農林水産省で試算。

注1：日本は平成15年度の数値。

注2：各品目の国産単価及び輸入単価については、FAO（国際連合食糧農業機関）のPrice STAT及びTrade STAT等より算出。

- 欧米諸国でカロリーベースで食料自給率を算出している国はほとんどない。
- 食料自給率向上を政策目標としている国は、上記の主要先進国の中では日本のみ。

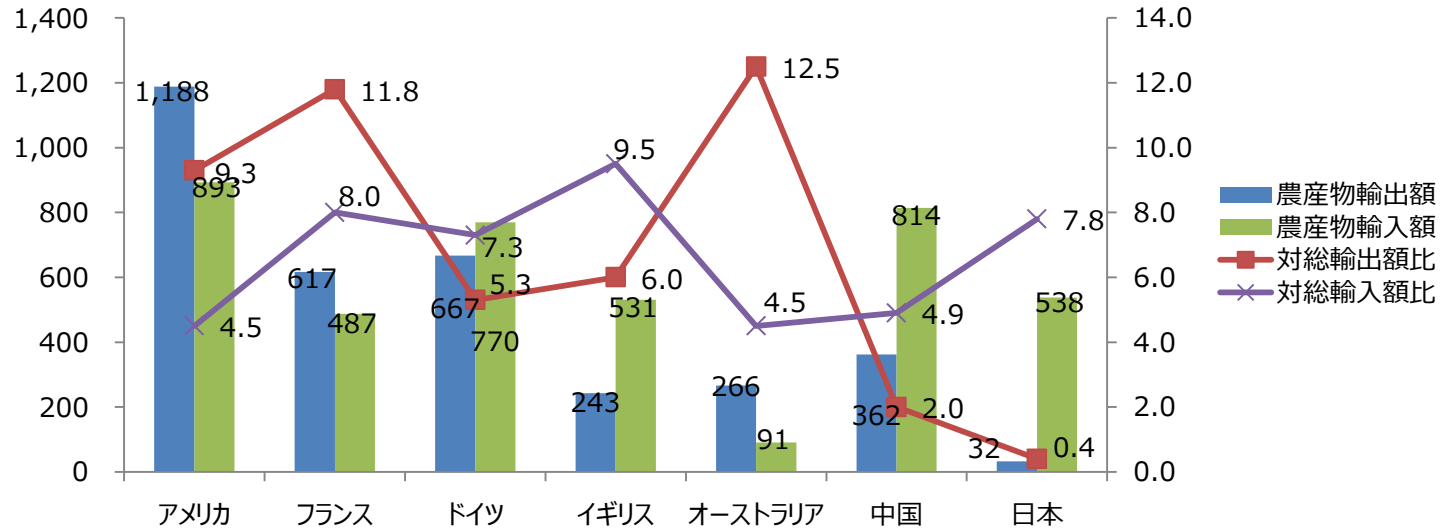
# 我が国の農林水産物・食品の輸出額の推移



単位：億ドル

## 農産物の輸出入額の各国比較

単位：%



(注) 「平成24年度 食料・農業・農村白書」(平成25年6月11日農林水産省公表)の「参考統計表」を基に事務局が作成

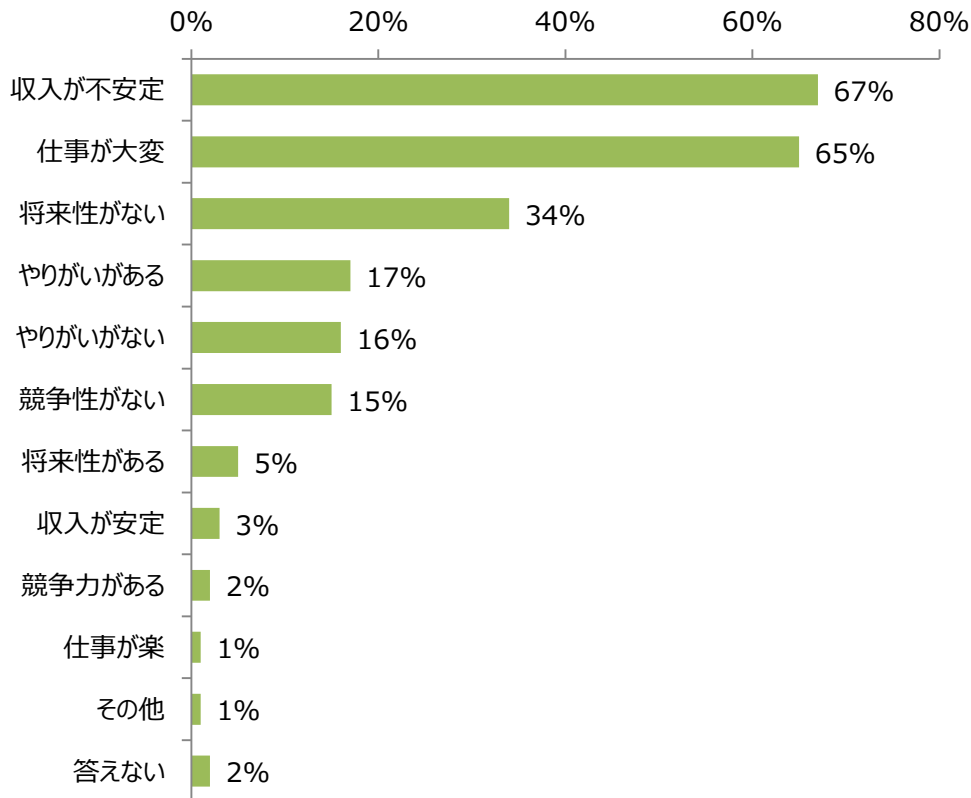
# [農業]2011年11月面接全国世論調査（読売新聞）-抜粋-

調査日：2011年11月12日～13日

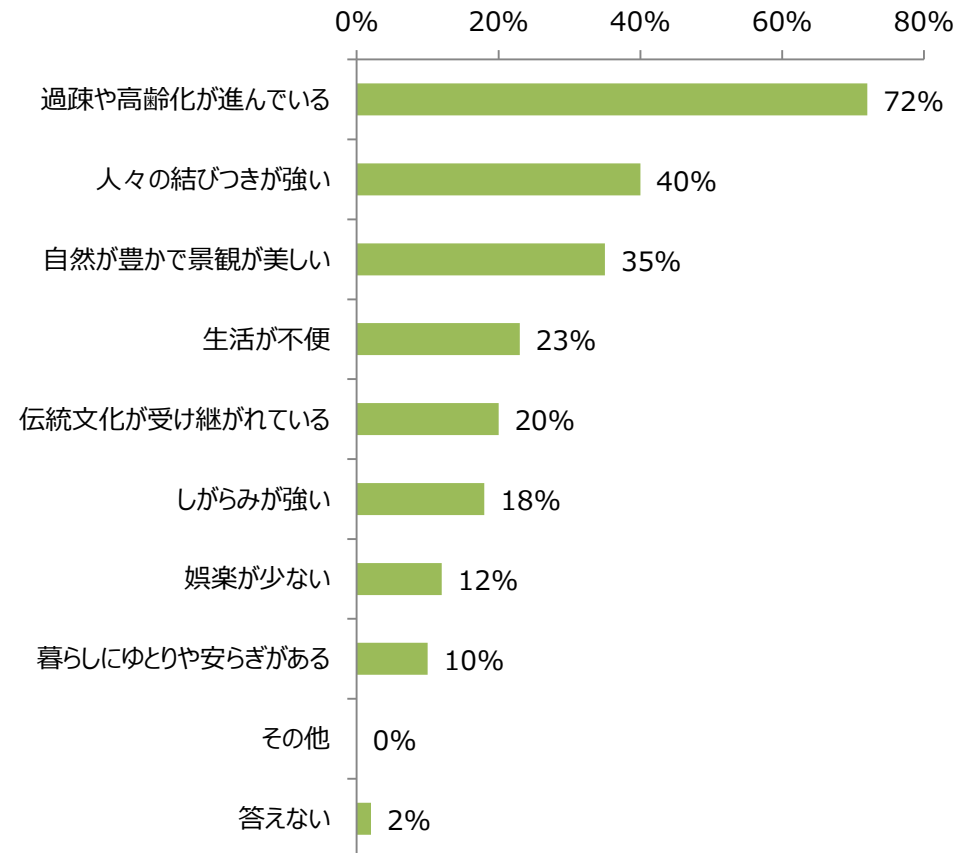
対象者：全国有権者3,000人（250地点、層化二段無作為抽出法）

方法：個別訪問面接聴取法、回収：1,724人（回収率57%）

あなたは、日本の農業に、どのような印象を持っていますか。  
（回答リストの中から3つ選択）

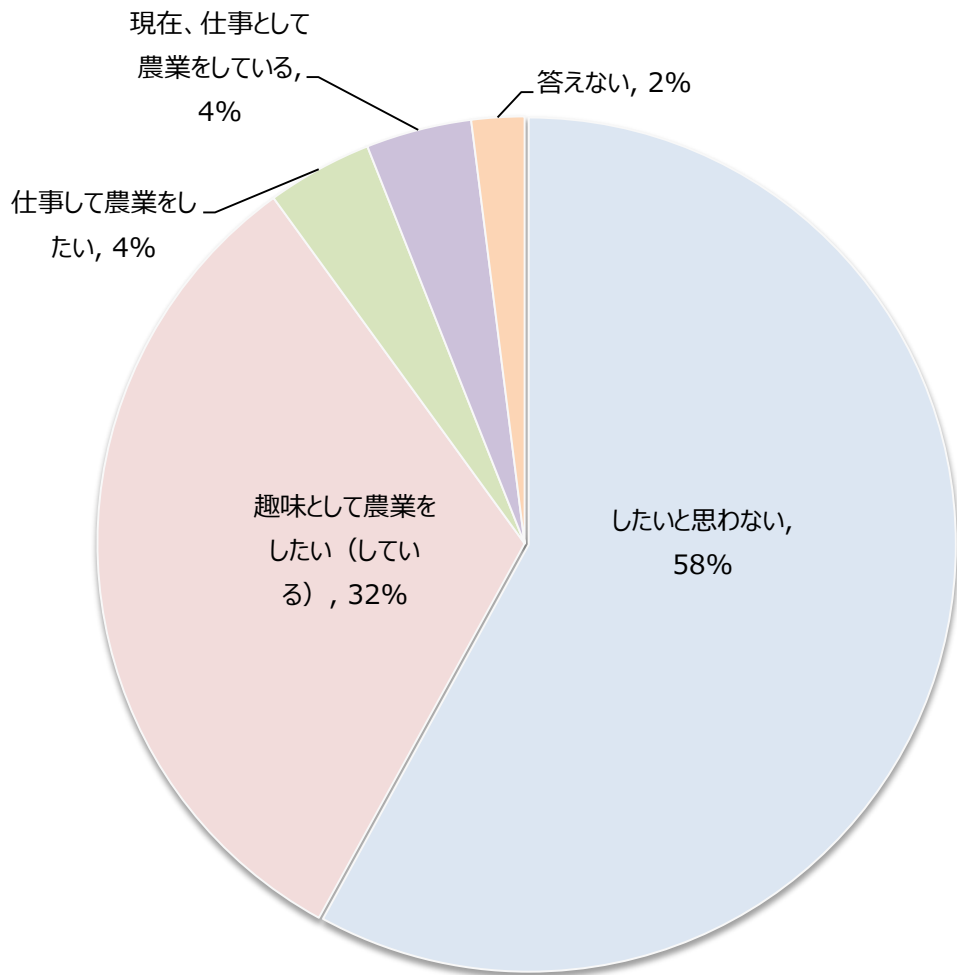


あなたは、日本の農村に、どのような印象を持っていますか。  
（回答リストの中から3つ選択）

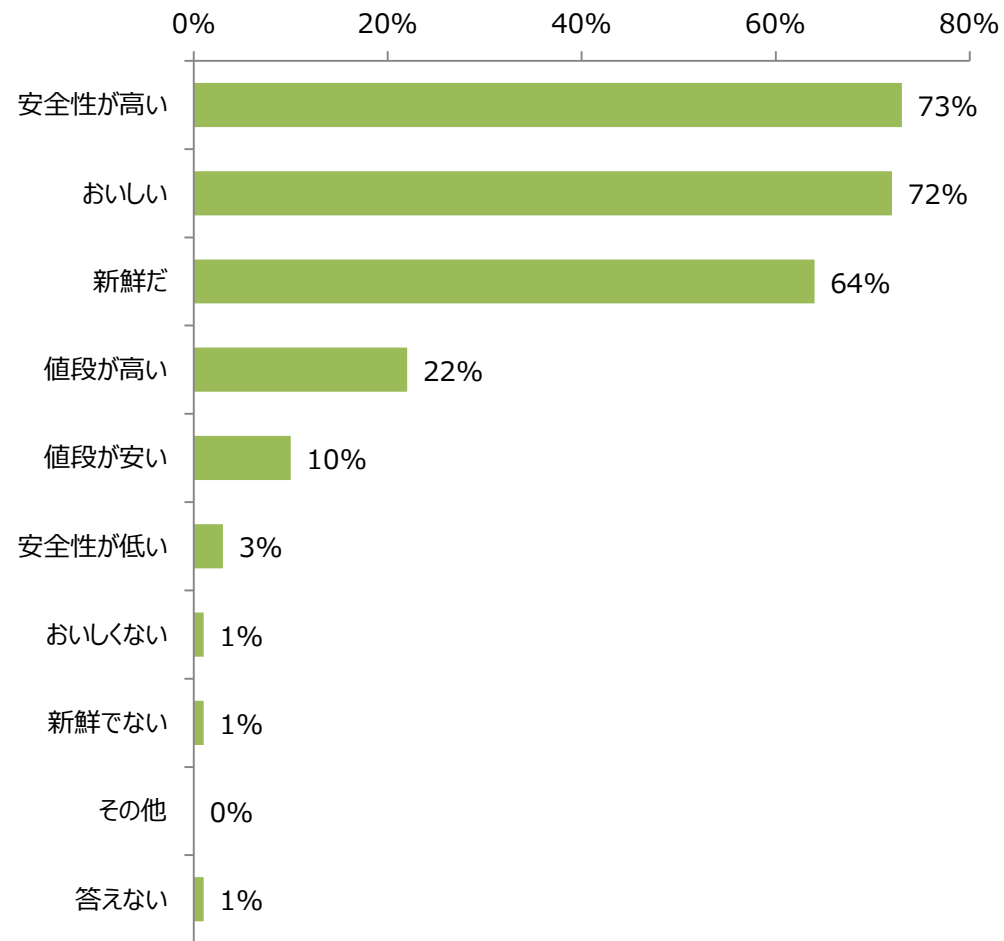


あなたは、農業をしたいと思いますか。

(回答リストの中から1つ選択)



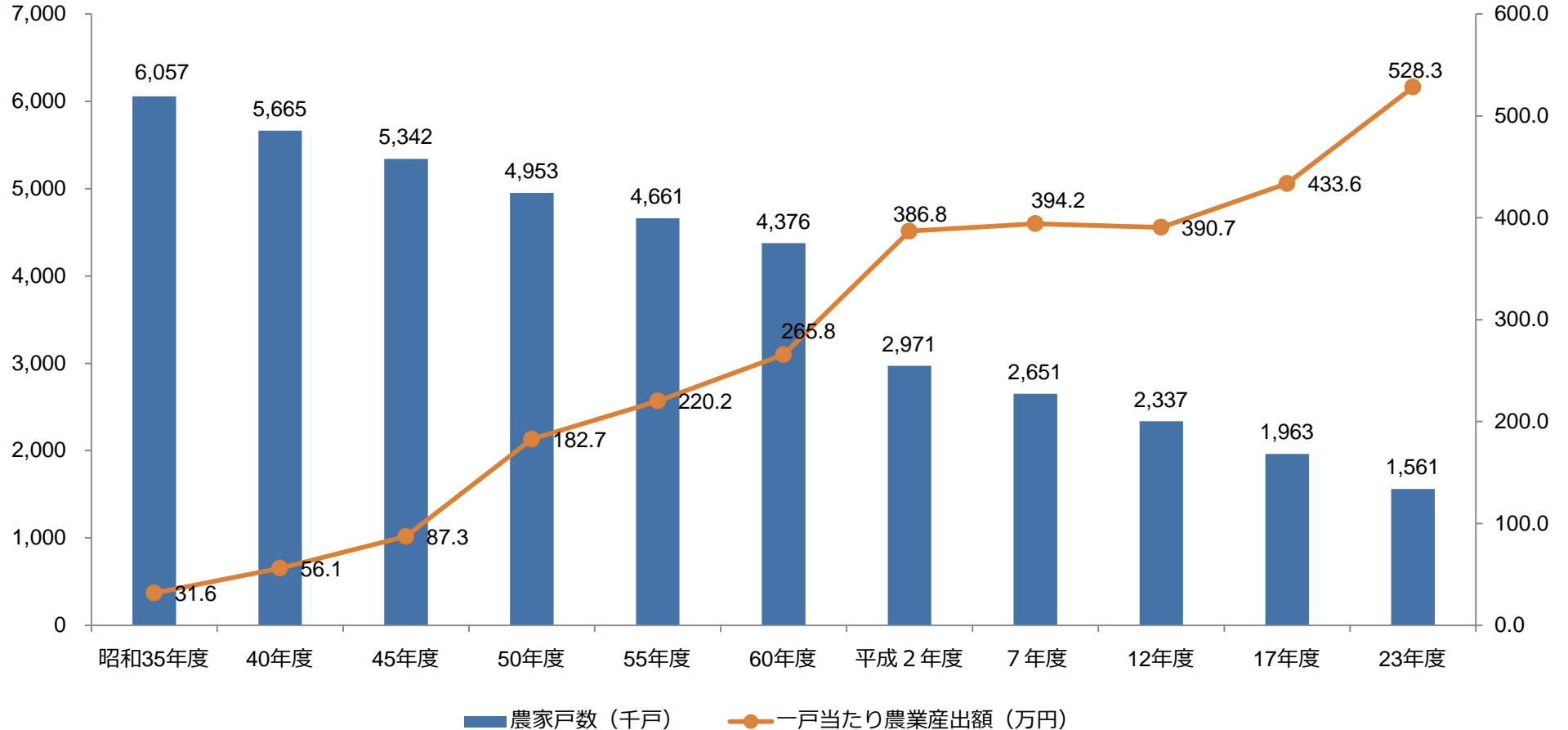
あなたは、国内産の農産物について、全体としてどのような印象を持っていますか。(回答リストの中からいくつでも選択)



# 農家戸数・一戸当たり農業産出額の推移

農家戸数：千戸

農業産出額：万円

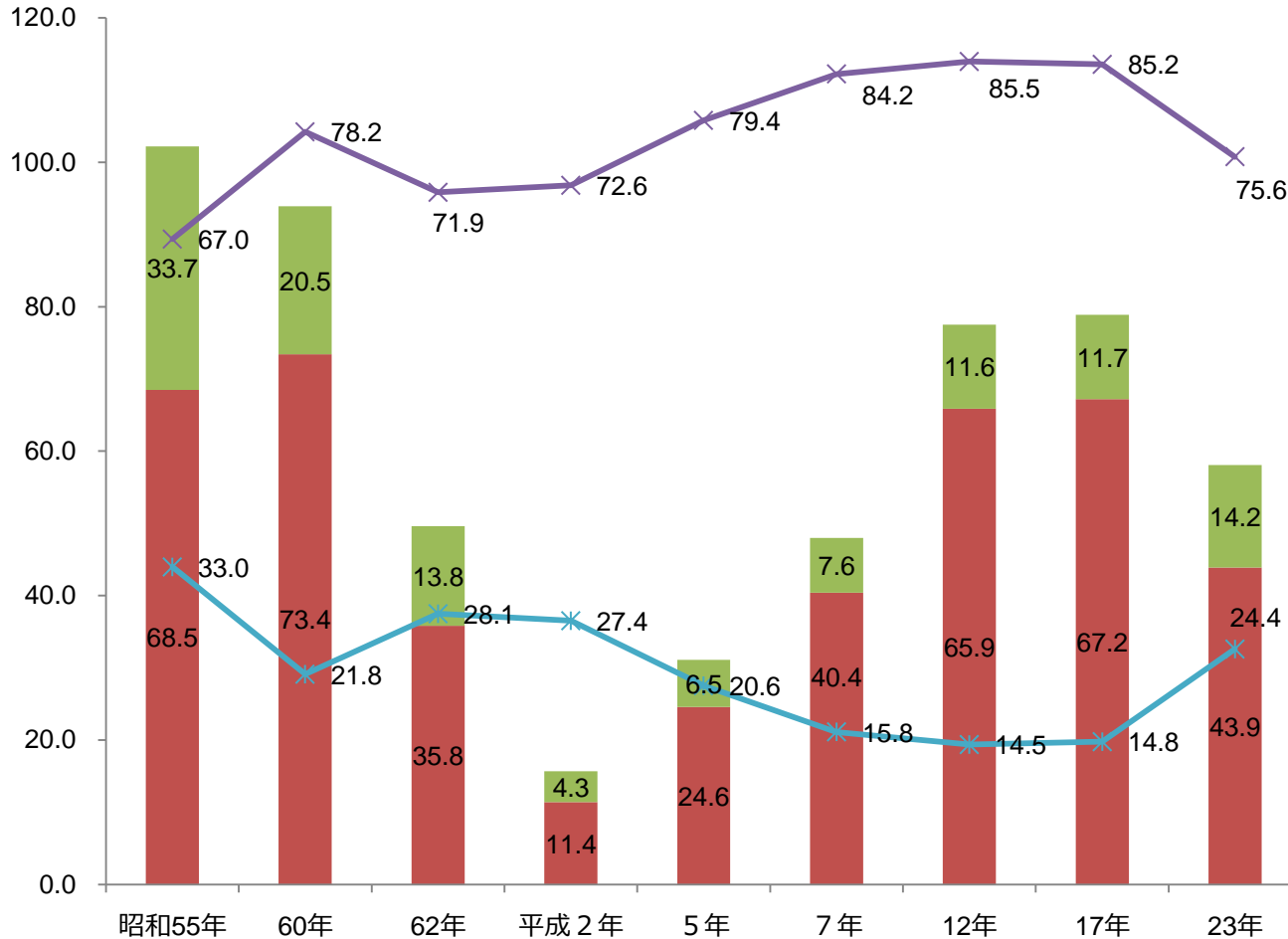


区分		昭和35年度	40年度	45年度	50年度	55年度	60年度	平成2年度	7年度	12年度	17年度	23年度
農家戸数 (千戸)	A	6,057	5,665	5,342	4,953	4,661	4,376	2,971	2,651	2,337	1,963	1,561
農業総産出額 (億円)	B	19,148	31,769	46,643	90,514	102,625	116,295	114,927	104,498	91,295	85,119	82,463
一戸当たり農業産出額 (万円)	B/A	31.6	56.1	87.3	182.7	220.2	265.8	386.8	394.2	390.7	433.6	528.3

(注) 「平成24年度 食料・農業・農村白書」(平成25年6月11日農林水産省公表)の「参考統計表」及び「生産農業所得統計」(農林水産省)を基に事務局が作成

# 新規就農者数の推移

単位：千人



単位：%

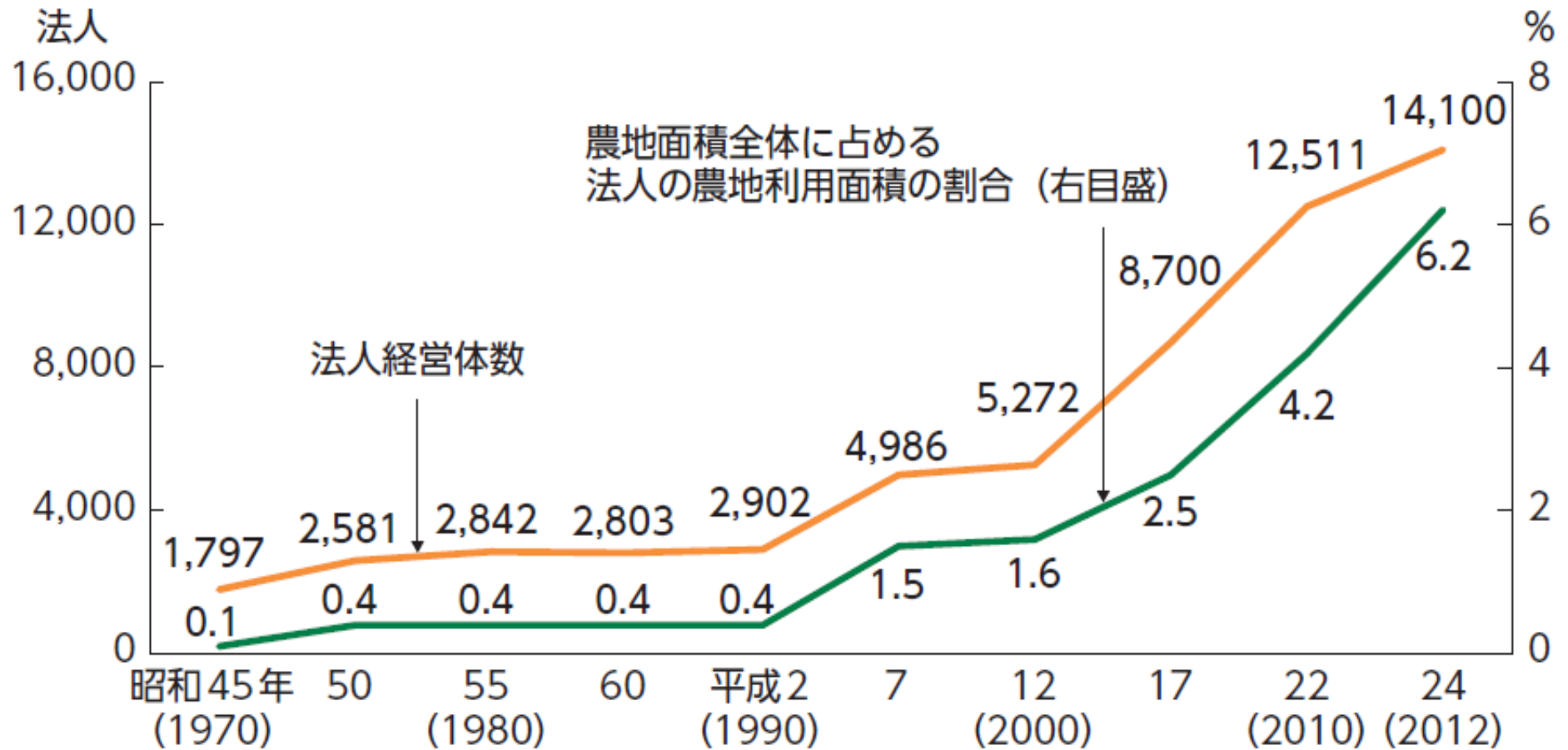
- 新規就農者数 (39歳以下)
- 新規就農者数 (40歳以上)
- ✕ 比率 (40歳以上)
- ✕ 比率 (39歳以下)

新規就農者数とは  
 ⇒ 次のいずれかに該当する者をいう。  
 ① 新規自営農業就農者  
 農家世帯員で、調査期日前1年間の生活の主な状態が、「学生」又は「他に雇われて勤務が主」から「自営農業への従事が主」になった者  
 ② 新規雇用就農者  
 調査期日前1年間に新たに法人等に常雇い（年間7カ月以上）として雇用されることにより、農業に従事することとなった者  
 ③ 新規参入者  
 調査期日前1年間に土地や資金を独自に調達（相続・贈与等により親の農地を譲り受けた場合を除く。）し、新たに農業経営を開始した者

区分	昭和55年	60年	62年	平成2年	5年	7年	12年	17年	23年
新規就農者数 (40歳以上)	68.5	73.4	35.8	11.4	24.6	40.4	65.9	67.2	43.9
新規就農者数 (39歳以下)	33.7	20.5	13.8	4.3	6.5	7.6	11.6	11.7	14.2
比 40歳以上	67.0	78.2	71.9	72.6	79.4	84.2	85.5	85.2	75.6
率 39歳以下	33.0	21.8	28.1	27.4	20.6	15.8	14.5	14.8	24.4

(注) 「平成24年度 食料・農業・農村白書」(平成25年6月11日農林水産省公表)の「参考統計表」を基に事務局が作成

# 法人経営体数と農地面積に占める利用面積の推移



資料：農林水産省「農業経営構造の変化」

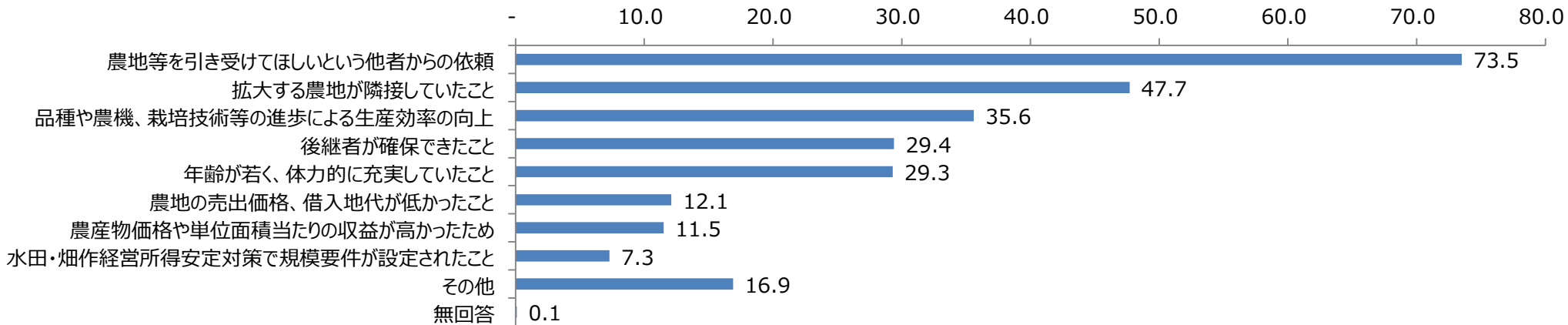
注：1) 農林水産省「農林業センサス」(平成22(2010)年まで)、「農業構造動態調査」(平成24(2012)年)、「耕地及び作付面積統計」により作成。

2) 法人経営体は、農家以外の農業事業体のうち販売目的のもので、平成2(1990)年までは会社のみであり、平成7(1995)年からは農事組合法人、農協、特例民法法人等を含む。

3) 平成24(2012)年は牧草地経営体を含む。

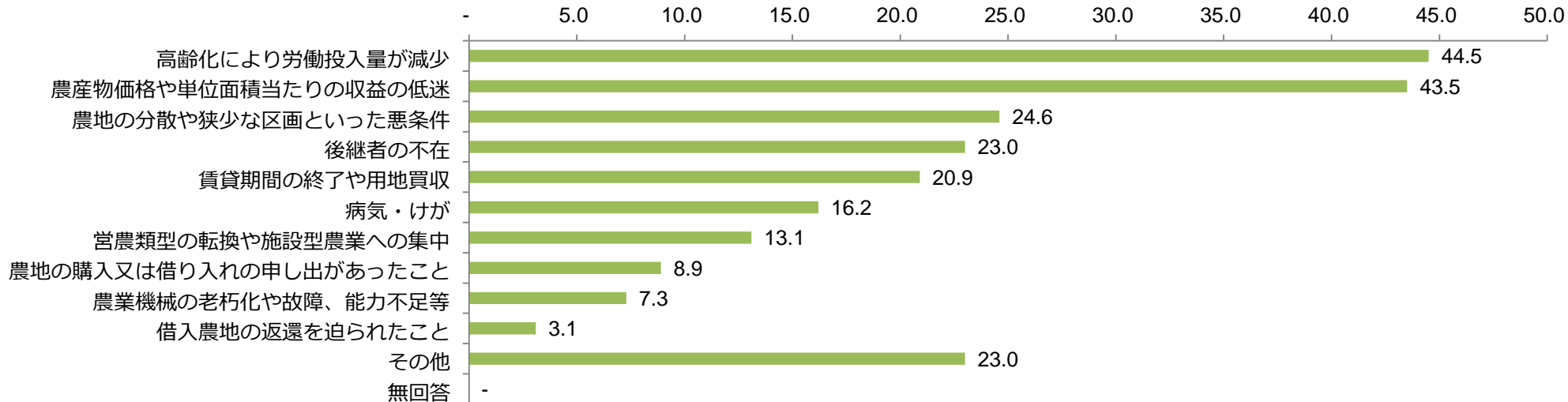
## 経営規模を拡大した理由（複数回答）

単位：%



## 経営規模を縮小した理由（複数回答）

単位：%

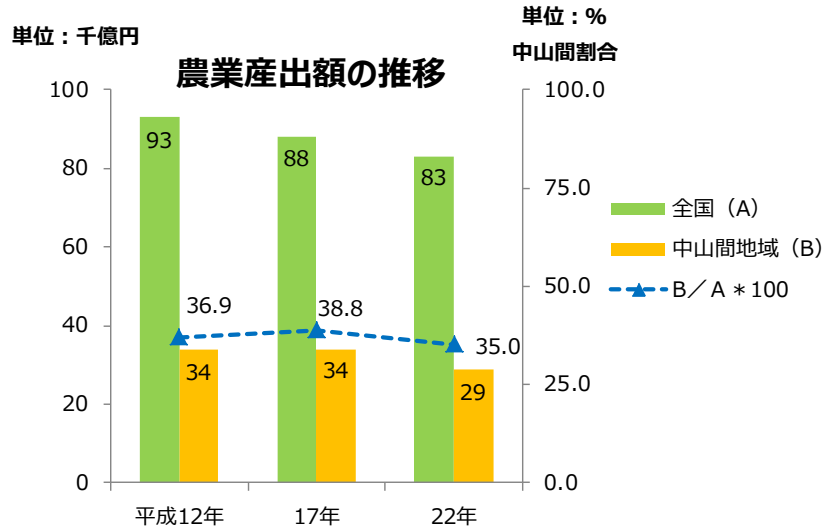


(注) 1 資料：農林水産省「経営する農地の拡大・縮小に関する意識・意向調査」（2008年1月実施）

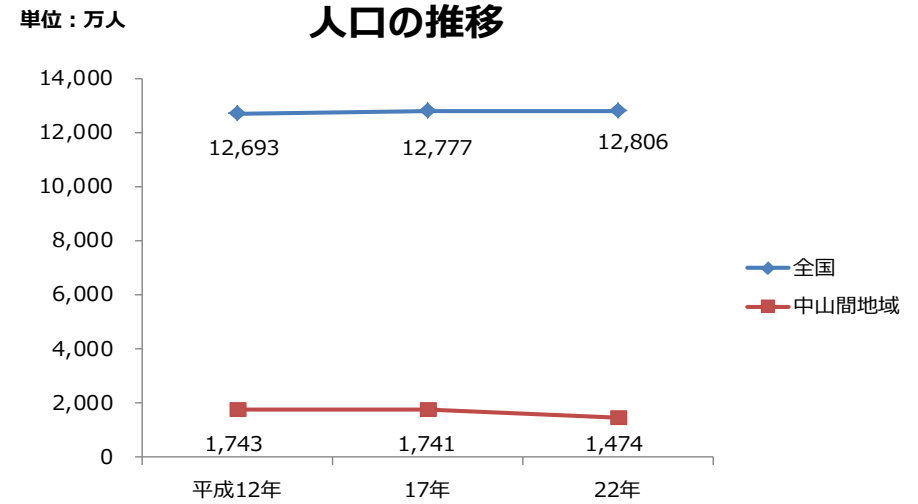
2 「平成19年度 食料・農業・農村白書」（平成20年5月16日農林水産省公表）を基に事務局が作成



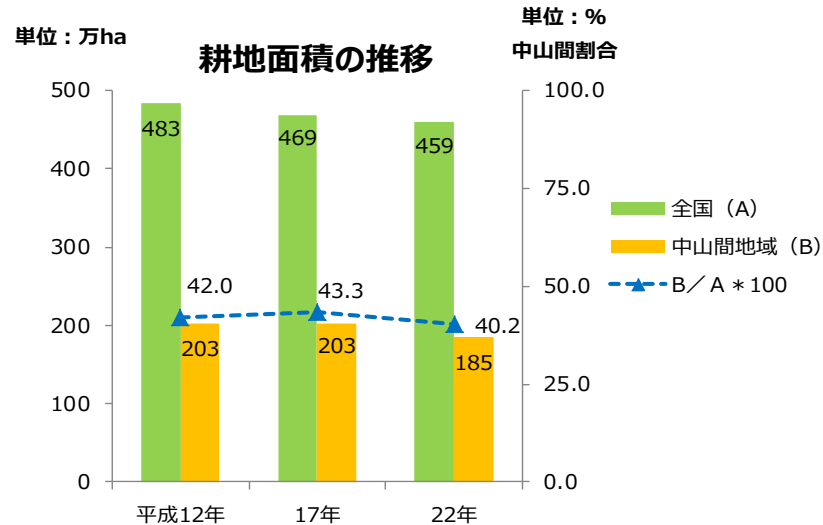
# 中山間地域農業の現状



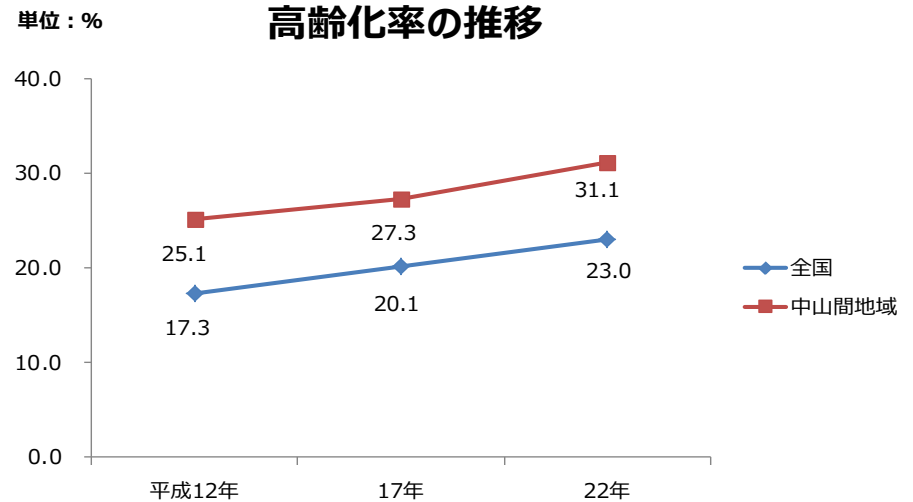
資料：農林水産省「生産農業所得統計」  
注：全国の産出額について、平成12年及び17年は「市町村別推計値」で、平成22年は「都道府県別推計値」。また、平成22年の中山間地域の産出額は、農林水産省農村振興局中山間地域振興課が推計。



資料：総務省「国勢調査」  
注：平成22年の中山間地域の人口は、「旧市町村」（昭和25年2月1日現在の市町村）単位で組替集計し、農林水産省農村振興局中山間地域振興課が推計。



資料：農林水産省「耕地及び作付面積統計」  
注：平成22年の中山間地域の耕地面積は、農林水産省農村振興局中山間地域振興課が推計。

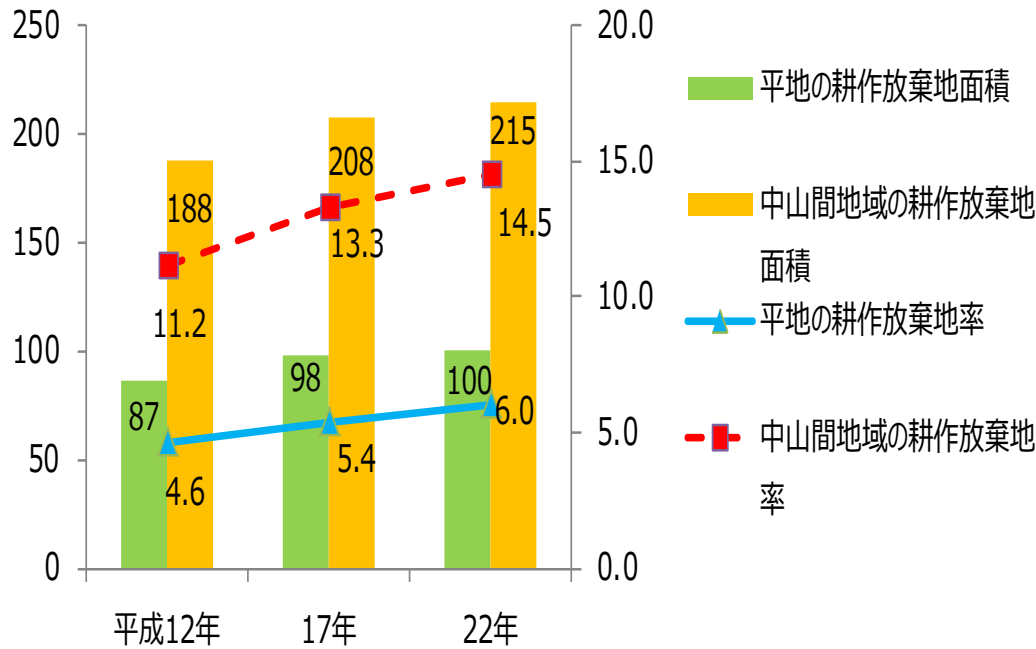


資料：総務省「国勢調査」  
注1：高齢化率は、65歳以上の割合。  
注2：平成22年の中山間地域の高齢化率は、農林水産省農村振興局中山間地域振興課が推計。

単位：千ha

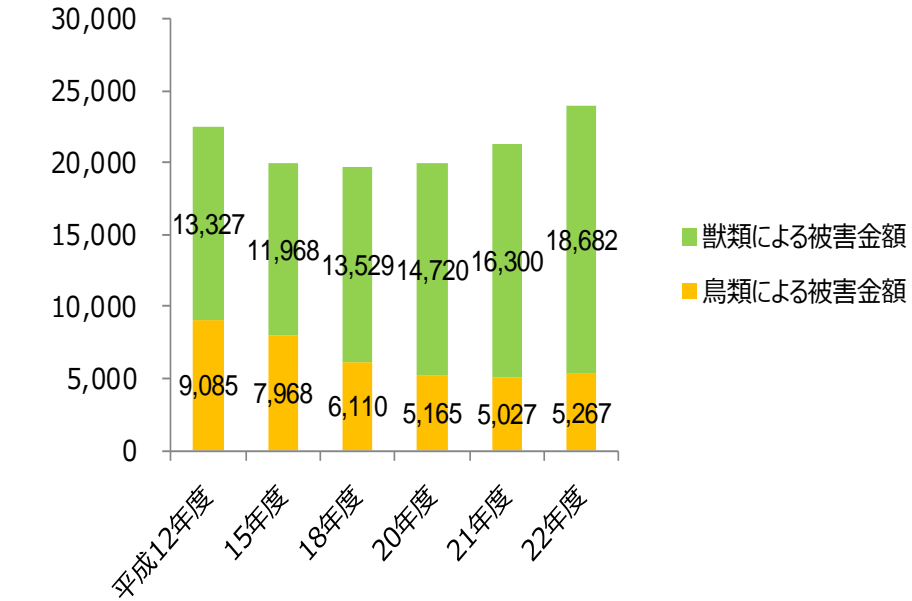
### 耕作放棄地率の推移

単位：%



### 鳥獣による被害金額の推移

単位：百万円



資料：農林水産省「農林業センサス」（総農家、土地持ち非農家）  
 注1：耕作放棄地率 = 耕作放棄地面積 / (経営耕地面積 + 耕作放棄地面積) × 100  
 注2：平成22年の農業地域類型区分は、平成20年6月改定のものを使用。

資料：農林水産省調べ（全国値）  
 注：鳥類とは、スズメ、カラス、カモ、ムクドリ、ヒヨドリ、ハト、キジ、サギ等のこと。  
 また、獣類とは、ネズミ、ウサギ、クマ、イノシシ、モグラ、サル、シカ、カモシカ、タヌキ等のこと。